

いづみニュースレター

発行元：社会福祉法人いづみ 東京都東村山市富士見町3-4-16

TEL:042-394-1868 平成29年1月発行 第6号

さまざまな人とのかかわりを

当法人理事（東京都教育委員会職員、前都立小平特別支援学校 校長） 堂東 稔彦

平成28年の後半に幼稚園、保育園の保育士、保母さんを希望する大学生とかかわる機会がありました。その中で、障害についてのイメージを訪ねると、「しゃべらないのでどう思っているかわからない」「一方的な話しかけの感じが始めた」「ケアが特殊で初めて聞く言葉があり難しそう、特に保護者への対応が大変そう」そのような答えが返ってきました。お互いを知らないことがどんなに大きな課題になるか改めて感じた次第でした。

逆に私たちの立場で考えると、子どもたちを支える支援者として行わなければならぬことが見えてくるようです。それは、どの子供たちも持つ、遊び、出会い、外出、学び、仕事などの社会生活の充実ではないでしょうか。障害や病気があるというだけで、「怪我したら大変」「体調を崩したら大変」「医療ケアで何かあつたら大変」と生命の安全を第一に大きく考えすぎることにも課題があるのではと思います。（もちろん、一人一人の子どもに合った安全管理、措置は必要ですが。）

そのため、こどもたちの社会参加はまず外に出ること、外との繋がりがあることが第一歩だと思います。各事業所から発行されている「あゆみっこ」「春夏秋冬」などのお便りにある様々な体験の様に、家庭・学校・施設の近隣、商店街、公園、

公共施設、地域の行事等、小さなうちから地域社会へ参加することが大切です。そのために、家庭、作業所等通所している施設、学校、地域が連携して、多様な交流を着実に進め、豊かな人間関係を育てあっていくことがすべての子どもたちのより良い発達を促すため、また、地域で豊かな生活が送れることに大変意義深いことだと思います。買い物をするとき、お店の人と、子どもの関係性はどうでしょうか、「買うのは親が…先生が…職員が…」ではないでしょうか、子どもが中心になるような工夫が必要です。そのために周りの人に子どもをよく知ってもらうことが大切です。その役割が支援者です。

私のふれあった学生たちから将来、病院内の保育士を希望するという声も聞きました。医療において、健康が回復、改善、維持され、そして「抱く」「あやす」「一緒に遊ぶ」などスキンシップを行うことにより、情緒の発達、言語や知的能力の発達、さらには身体発育が促され、心身共に健康になっていくこと思います。

これからも、子どもたちの日々の学校生活がより一層充実したものになりますよう、引き続き微力ながらお手伝いさせていただきたいと思います。

あゆみっここの行事（運動会）

あゆみの家幼児部

幼児部では、春の親子遠足、運動会、秋のお芋掘り遠足、クリスマス会、卒園修了式等の行事があります。その中で今回は平成28年度の運動会の様子をお知らせします。

平成28年度の運動会は園児による開会宣言で幕を開け、かけっこ、玉入れ等の競技を行いました。玉入れでは、合図があるまで玉を触らずに待ち、合図があると一斉に玉をかごめがけて投げたり入れたりする姿が見られ、園児の成長を感じられる場面となりました。

保護者競技のグループ対抗大縄跳びでは、子ども達に負けないくらい真剣に跳ぶお父さん、お母さんを子ども達は一生懸命応援しました。

親子競技のデカパン競争では、お父さん、お母さんと出るとあって、大張り切りの子ども達。お子さんに引っ張られるように進むペアもあれば、さすが親子！と言いたくなるような息ぴったりのペアもあり、待っている子どもも保護者も自分のチームの応援で大盛り上がり。お楽しみのパン食い競争は応援に来てくれた子ども達も参加しました。

園児も保護者も職員も、一丸となって競技を盛り上げ、園児による閉会宣言で楽しかった運動会は幕を閉じました。

(担当 幼児部 渡邊 彩子)



あゆみの家施設内宿泊

あゆみの家成人部

平成28年10月6日（木）～平成28年10月7日（金）あゆみの家施設内にて宿泊行事を行いました。例年は外出先で宿泊を行っていましたが、今年の宿泊は全員であゆみの家で行うことになり、普段は宿泊に参加していない利用者さんにも参加していただくことができました。

一日目は大道芸者を招き、目の前で圧巻のパフォーマンスを披露してもらいました。バルーンアートや中国ゴマを使った巧みなパフォーマンスに驚きの連続でした。夕食は付近の南台シニアセンター「敬愛の森」にて特製の御膳をいただきました。品数も多く美味しい料理、そして食べやすい料理の数々に皆さんぺろりと完食していました。

二日目は劇団「じろっぽ」による人形劇を鑑賞しました。細部まで作り込まれた人形と感情の入った演技に釘付けでした。午後はノルウェーハープ奏者4名による癒しの演奏を聴き、とても心地よい音色で皆さんうつとりてしまいました。2日間とも大盛り上がりで閉幕しました。

(担当 成人部：宮下 玄)



羽村市動物公園遠足

ひまわり

10月14日（金）秋の遠足で、羽村市動物公園へ行つきました。お天気に恵まれのんびりした雰囲気の中、白ヤギ、黒ブタ、キリン、ペンギン、レッサーパンダ等の動物達を見たり、匂いを感じたり、鳴き声を聞いたりして、各自のペースで楽しむ事が出来ました。最後に行ったドキドキハンズオンのコーナーでは、モルモットやひよこと触れ合いました。ドキドキしながらも動物たちのぬくもりを感じる事が出来ました。（担当 ひまわり 望月 亜津子）



集合写真



触れ合い

つばさ宿泊旅行

ライフサポートつばさ

平成28年10月3日（月）～平成28年10月4日（火）大型バス2台、つばさの送迎車2台を使用し、昨年も宿泊した「横浜あゆみ荘」へ行きました。今年は、25名の利用者さんが参加されました。

1日目は、調布にある味の素スタジアム隣のロイヤルホストで、各自好きなメニューを選び昼食をゆっくり食べました。宿泊場所に到着後、貸し切りの大浴場、機械浴を使用して入浴。夕食は、お刺身など豪華な食事でした。夕食後、希望者の方々が集まり、レクリエーション（広告ビンゴゲーム）を行い、盛り上がりみなさん楽しまれていました。優勝チームには、豪華な景品が贈られ、参加賞もありみなさん大喜びでした。

2日目は、朝からラジオ体操に始まり、みなさん気持ちよく体を動かしました。ゆっくり朝食を食べてつばさに戻り、いつもの一富士さんの美味しい昼食を食べ、ゆっくり午後は過ごしました。ちょっとしたハプニングもありましたが、つばさらしい笑顔の多い楽しい宿泊旅行になりました。（担当 つばさ 千葉 英之）



秋の制作活動

「スマイル」

秋になると毎年恒例、制作活動が始まります。ぴゅあアート展へ出品する作品や東村山福祉のつどい（H28.12.2～3）に展示するための作品づくりです。皆で協力一つの作品作りを行います。

ぴゅあアート展の作品は、様々な色のフェルトを混ぜ丸く成形、色砂が入ったフィルムケースに穴を開けそれをふりふり、砂絵でベースを作り、題して「いつかのさんぽ道」を作成しました。

福祉のつどいには緑色のペットボトルを使い、ひとつひとつ創意工夫し装飾小さなツリーを作り、それをポールハンガーと針金を利用したものへ取付け、ひとつの大きなクリスマスツリーとしました。 ぴゅあアート展入選作品は東久留米市役所1階市民プラザホールに展示されました。

（担当 「スマイル」 梶沼 知徳）



ぴゅあアート展作品作り・作品



ペットボトルを使った作品つくり

法人いづみの取組

第3回いづみコンサート 平成28年11月26日(土) 富士見文化センターホール

出演：山口とも（日本廃品打楽器協会会長、打楽器奏者、写真家）

上田道子（日本音楽療法学会認定音楽療法士）

参加者：利用者、保護者、職員、地域、外部の方々 合計 108 名

いづみコンサートとなって今年で3回目、前身のスマイルコンサートから数えると11回目のコンサートとなりました。去年の参加人数を超える、108名の方が参加してくださいました。出演者の山口ともさんは、缶や発泡スチロール、バネ、木、豆、風船など様々な物で楽器を作り、演奏し、その独特の音色でコンサートは盛り上りました。

また、参加者も、新聞楽器や、ペットボトルで作ったペッカーと一緒に楽しみました。山口ともさんの「この世の物全てに音がある。ドレミとか考るのではなく、その音を楽しんでほしい」とお話があり、その言葉が印象的でした。

普段から何気なく聞いている音、今までより、少し注目してみると、より音楽として楽しめるかもしれませんね。



防犯対策についての取組

平成28年11月17日(木) 富士見事業本部



東村山警察署生活安全課より署員の方をお招きし、ライフサポートつばさ・ひまわりの利用者さまと共に不審者侵入時の対応訓練を実施し役割分担等の確認を行いました。

万が一の時には先ず安全な所へ退避、そして110番通報をしてくださいとの事。7、8分で駆けつけますとお話をされていました。

歯ツピ大会イン東村山プレ大会へ参加

平成28年11月17日(木) ライフサポートつばさ

毎月2回、ミカミ歯科医院の先生のご好意により、お一人お一人の歯磨きを見て頂き、その後で、介助する職員に磨き方のご指導をして頂いています。表彰式では、このような、日頃の取り組みが評価され、利用者代表2名が出席賞状を頂きました。その後、歯と口についての講和、口腔体操等、会場の皆さんで楽しい一時を過ごしました。次年度の本大会を目指して、更に歯と口の健康づくりに、取り組んでいきたいと思います。



志村 初代理事長の仏前に記念誌献上

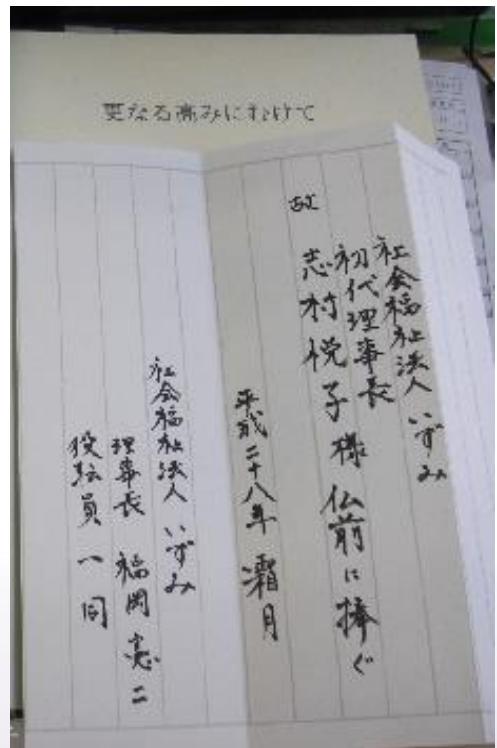
富士見事業本部長 江崎 明子

平成 28 年 11 月 29 日、福岡理事長とご一緒に、社会福祉法人いづみ創立 10 周年記念誌「更なる高みにむけて」を携え、初代理事長の故志村悦子様のご自宅を訪ねてきました。ご仏前に記念誌一冊を捧げ、法人いづみが無事 10 周年を迎えた事などご報告して参りました。

ご案内頂いた次女のお嬢様から、最後の病床に伏せ乍らも、志村様が病室の人たちや見舞客等に、何くれなく気を使われたりと気丈であったとお話を聞きし、平成 17 年、18 年の 2 年間、理事長をしておられた志村さんの凛としたお姿を印象深くも懐かしく思い出されました。



在りし日の志村理事長
(平成 17 年 3 月 東京都庁にて)



仏前に献上した 当法人創立 10 周年誌

硝子戸の向こう

連載企画 第6回
理事長 福岡憲二

カイロス (Kairos)

カイロス (Kairos) は「切断する」というギリシャ語の動詞に由来するギリシャ神話に登場する一種の擬人神で、ゼウスの末子。長い前髪と禿げた後頭部を持ち、両足には翼が付いている美少年の彫刻で表現されています。

もし前髪をつかみ損ねて、その直後に後ろ髪をつかみ直そうと思っても手遅れです。カイロスをつかむ一瞬のタイミングを外すと、二度とその機会は訪れない。その一回限りの瞬間性を表し、両足のつばさは、カイロスの空中浮遊性を暗示していると言われます。このことからカイロスは、予想不可能なもの、神出鬼没な性質をもつもの、一瞬のチャンスや好機、潮時、ターニング・ポイント「人生の大切な節目」を意味する「時の神」、いわゆるチャンスの神と伝えられています。

一方、スイスの腕時計の名前で有名なクロノス (Kronos) は、ゼウスの父親で、ウラノスとガイアの子。頑強な老人で左手に杖、利き手の右手に鎌を持つと。時の流れは全てを滅ぼし消し去るので、クロノスは右手の鎌ですべてを消し去るとイメージされ、流れ去る時間、消えていく時間として定着したとの事です。つまりクロノスは“物理的な時間”を司る神で、量的に計測可能な時間、に対して、カイロスは対極的に意味時間であり、感じる時間、“精神的なタイミング”を意味する神です。

人はその人生で、時に劇的な瞬間に遭遇して、強いインスピレーションを受けることがあります。身内が重い病気になり、大きな衝撃を受け、その為に発想が大きく変わる場合もあれば、自分の奥深い悩み事に対し、親子以上に親密に相談に乗ってくれる他人に、深い感謝の気持ちが湧き出る時など。その様な危機や感謝等の決定的な「時」に遭遇する事をカイロスと呼ぶ場合もあります。

また、死を宣告されていた重病人が劇的に元気になる事や、瀕死の重傷から奇跡的な生還を果たす事など、又、一生の恩師や生涯の友人の遭遇、魂を揺さぶられるほど感動する書物との出会い、結婚や子どもが授かる事から受けるこの上ない喜びは、次の人生への大きなエネルギーとなって人を飛躍させます。これもカイロスです。

一方でわが子や親しい友人の予想外の発病や障害の受障、場合によってはその死は、人を打ちのめします。悲嘆し、抑鬱的になり、それでも現実否認の混乱の中から人は立ち上がり、時間はかかるが、やがてそれを克服し、そして、ゆっくりと受容します。その受容の前とその後では、人は大きく変わります。そうした危機や決定的な「時」に遭遇することもカイロスです。

このようなカイロスに出会う事にこそ人生の意味があるとも言います。

重度の障害の子を育ててきた多くの親御さんには、私と妻も含めて、それぞれの人生の道のりの途中、色々なカイロスとの出会いがありました。又、今から、又はじめて、予想もしていなかった重度の障害を受けて生まれて来た吾が子を育していく親御さんも、それぞれ様々なカイロスとの出会いが待ち受けていることでしょう。

人はだれでも、その一生の中で必ず一度は、転機、或いは転換期を迎えます。そしてその瞬間こそが、人にとって最も「掛け替えのない時」なのでしょう

つまりその代わりをするものがない一回限りの刹那的な儻さを持った時間こそが、カイロスという時間です。いわば一期一会の機会です。

その時、まさにそのとき、つらくて耐えられない瞬間もあるでしょうが、そのカイロスを正面から受けとめ、立ち向かい、大切にしたいと思います。私の場合、自信をもって言い切る事はできませんが、その後の人生は、かなり大きく変わりました。

以上

参考資料

- 二つの時間意識～カイロスとクロノス～ 恵泉女学園大学 岩村 太郎著
ギリシャ神話 上巻 新潮社版 吳 茂一著
リハビリテーションを考える 青木書店 上田 敏著
新約聖書 新改訳 日本国際ギデオン協会

△

～今後のトピックス～

平成29年2月4日（土） 社会福祉法人いづみ主催講演会のお知らせ

「笑ってアンチエイジング」

『笑い』が持つ不思議な、そしてステキな効用についてご紹介
笑いは老若男女すべての人々の日常生活に通じ、役立つテーマであることを違ひなしです。

多くの皆様のご参加お待ちしております。

講師：鏑木 淳一氏 一般社団法人日本健康管理協会 新宿健診プラザ所長

日本笑い学会 講師

講演時間：午後2時30分～4時30分

会 場：東村山市社会福祉協議会内地域福祉活動室

東村山市野口町1-25-15

入場無料、直接会場にお越しください、

後 援：東村山市 東村山市社会福祉協議会

問合せ先：ライフサポートつばさ 042-394-1761

～編集後記～

昨年の暮れは何かと政治の話題が豊富でした。トランプ次期大統領や、韓国の大統領の件、日本でも小池新都知事当選後の動向が日々報じられています。世の中大きなうねりが起きつつあるのでしょうか、身近では全く感じられませんが、障害福祉の分野により良き変化があることを願いたいです。
「スマイル」管理者 梶沼 知徳